

# 私の研究

中嶋 嶺 雄

中ソ論争の激化というアクチ ユアルな状況のなかで、私が『現代中国論——イデオロギ―と政治の内的考察——』（書本書店）を世に問うたのは、一九六四年の秋だった。この著書は、幸いにして今でも版を重ねているが、また二十代半ばの頃の研究であり、いい意味でも悪い意味でも著者がそのまま出ている。

それから十年余の経過のなかで、私の研究上の関心は、中国内政と国際関係の現状分析とともに「スターリン批判」（一九五六年）を契機に中ソ論争が発生する以前のの中ソ関係へと遡（さかのぼ）っていった。いわば戦後アジアの冷戦構造の形成過程にも関連した中ソ対立の歴史的構造に关心的研究である。そこでは当然、ヤルタ体制と中国、旧満州・新

科学研究所による大型の共同研究などをめぐる中ソの角逐、朝鮮戦争と中国、高崗事件と中ソ関係、「国際環境の基礎的研究」は、最も初めのユニークな試みである）、毛沢東の關係などが対象になる。またでは西側の資料が公開されつつある。問題は中国やソ連だが、しかし、毛沢東の非公式資料（『毛沢東思想』万歳など）やフルシチョフ回想録などの出現によって、その空白をかなり埋めることができる。研究がすすむと、中ソ両国のあいだに中ソ角逐の舞台としてモンゴル、新疆、旧満州などの広大な中間地帯が存在したことが、中ソ

## 中ソ対立の歴史的構造



最近、アメリカの対日占領期の資料が解禁され、多くの話題を呼んでいるように、ほぼ一九五〇年

（なかじま・みねお）東京外大 助教授